日本総研 リサーチ・アイ
The Japan Research Institute, Limited

No.2009-065
2009年11月20日
http://www.jri.co.jp

中国の輸出増がわが国輸出に及ぼす影響

～輸出品の構造変化によりわが国へのプラス効果は限定的～

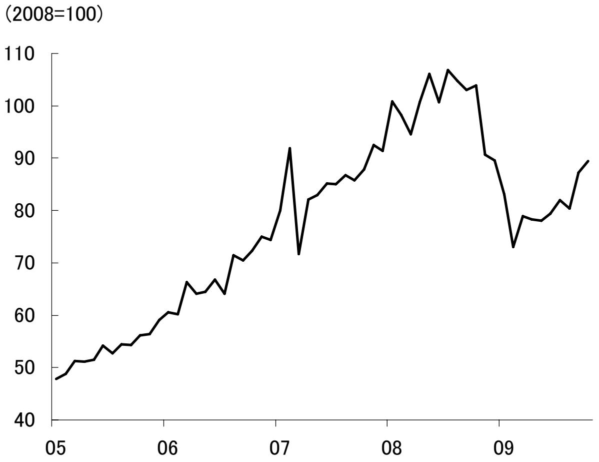
（１）2009年10月の中国の輸出額は前年同月比▲13.8％と減少幅が縮小。水準でみると、底であった２月に比べて+22.4％の大幅増(図表１)。

（２）わが国の中国向け輸出は「世界の工場」向けの部品・資本財が中心であるため、中国の輸出増により日本の輸出も増加する可能性。実際、中国の輸出とわが国の中国向け輸出には高い連動性(図２)。

（３）そこで、中国の輸出が持ち直している要因を分析すると、以下２点が指摘可能。
①先進国の景気対策による機械輸出の拡大。日米欧向けの寄与率は53％と全体を牽引(図３)。たとえば、日本向けでは薄型テレビ(含む部品)が拡大。
②先進国におけるデフレ圧力の強まり。2005～08年の輸出拡大局面と比べると、繊維・玩具の寄与率が上昇していることが特徴(図３)。これは、所得環境の悪化が続く先進国で低価格志向が強まったため、低価格の中国製品に対する需要が拡大したことが背景。

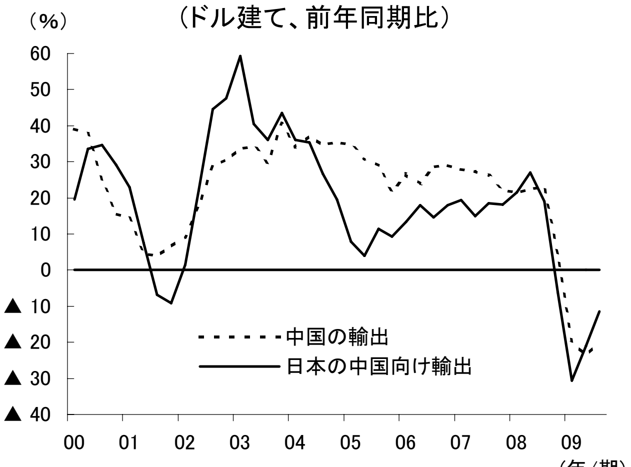
（４）以上の分析を踏まえると、中国の輸出増に連動してわが国輸出が増加するとの見方は早計。
①先進国の景気対策効果の剥落により、中国の機械輸出の増加ペースが鈍化するリスク。これはわが国の中国向け部品・資本財輸出にもマイナス影響。
②先進国の景気低迷長期化により、中国の繊維・玩具類輸出は拡大が続くと予想されるものの、わが国輸出に対する誘発効果は小(図４)。

(図表1)中国の輸出額(季調値)



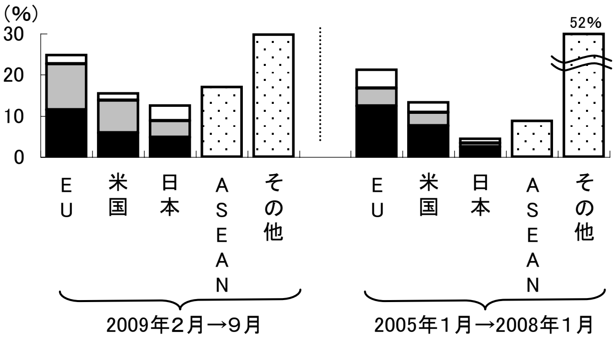
(資料)中国海関総署をもとに日本総研作成
(注)ドル建てベースの名目値を日本総研が季節調整。

(図表2)中国の輸出と日本の中国向け輸出
(ドル建て、前年同期比)



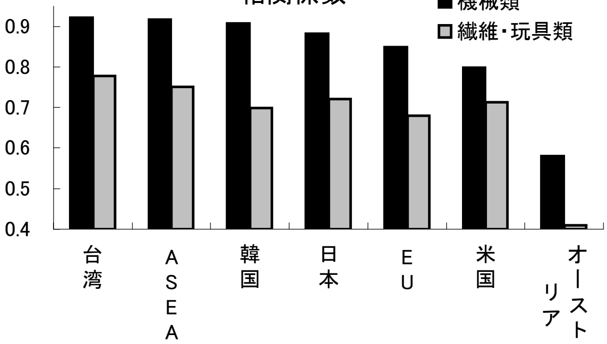
(資料)中国国家統計局、財務省

(図表3)地域別品目別の輸出増加額の寄与率



(資料)中国海関統計をもとに日本総研作成
(注)ドル建てベースの名目値を日本総研が季節調整。

(図表4)中国の輸出品と地域別輸入の相関係数



(資料)中国海関総署をもとに日本総研作成
(注)2002年Q1～2009年Q3の四半期、ドル建てベース。

《ご照会先》日本総合研究所・調査部　研究員　関辰一（report@jri.co.jp、03-3288-4533）